



広島もみじまんじゅうラウンド

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

令和2年10月24日(土) 広島県立総合体育館大会議室

今年度は、子供たちの安全・安心な学校生活のために何をすべきか、感染症防止対策に気を張り詰めながら過ごしている日々ですが、自然の移り変わりにも目を向け、豊かな自然の美しさを感じる心の余裕をもっていたいと思う今日この頃です。

さて、10月24日(土)の研修には、現地会場に19名、オンラインで7名の方に参加していただきました。ネットワーク研修会の活動も制限を余儀なくされる中ではありますが、「何ができるかいろいろ考え、チャレンジしてみよう！」と思い、今回の研修を企画しました。先生方は、熱心に協議に参加してくださいました。今後も変化が予測される世の中にあっても、子供たちにとって学びがいのある体育・保健体育の授業にしていきたいために、世の中の動向にアンテナを立て、柔軟に対応できる力を身に付けていかなければと改めて思いました。

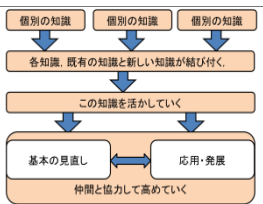
【研修の内容】

□ 1 時間目：これからの時代に求められる教育について語ろう！



「【21分で解説】シン・ニホン by 安宅和人 | 日本に残された唯一の道」を視聴しこれからの時代に必要とされる資質能力について協議しました。コロナ禍で学校を取り巻く教育の環境も変化してきました。情報を活用し、個別に質の高い教育内容を提供することも求められる大切な視点となってきているようです。

□ 2 時間目：今後、できそうなことを考えてやってみよう！



続くワークショップの冒頭、福岡教育大学の本多先生から、大学での授業の様子を紹介していただきました。オンラインにより新たな知識を事前学習し、集団で行う実技や演習で分からない部分を補完していくという反転授業の形式は、工夫次第で小・中・高でも実施可能ではないかと思います。演習では、「わかる」と「できる」をつなぐ汎用的な知識について、器械運動では？陸上競技では？と授業場面と関連付けながら考えました。個別の知識や既存の知識と「できる」をつなぐマスターキーのような役割を果たす汎用的な知識について考えたり、知識と技能を関連させながら、関わり合いながら学んでいけるよう授業展開を構想したりすることで指導内容や授業のながれがより明確になっていくのではと思いました。

□ 3 時間目：今日の学習の振り返り

本研修の終わりに、徳永先生及び佐藤先生から、本日の研修を総括してお話をいただきました。



徳永先生からは、「改めて体育の基礎・基本を問う」と、体育の授業づくりで押さえておかなければならないことについてお話をいただきました。今後、ICTを活用した授業づくりが求められるようになるが、これまで大切にしてきた「できる」「わかる」実感がもてる授業づくり、互いに関わり合いながら、試行錯誤しながら、課題解決していく授業づくりといったことについては、今後も大事にしなければならない。

佐藤先生からは、全体のまとめとして、国の教育の動向を交えて、時代のながれを注視しつつ、教員として求められる資質能力を向上させていくことの大切さについてお話をいただきました。

多忙な中、参加してくださった皆様、ありがとうございました！

文責：清田

